

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 機能

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

第2章 ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

第3章 トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
第 1 章 機能	
1 セットアップ後	10
セットアップ後の設定	10
Windows Update を実行する	10
SCSI ドライバのバックアップ (M420)	10
2 ディスプレイ関連	12
解像度と色数について	12
マルチディスプレイ機能	21
マルチディスプレイ機能を設定する	23
3 通信	31
内蔵 LAN について	31
4 ドライブ関連	33
ドライブ構成	33
DMA の設定	34
ファイルシステムについて	35
5 省電力	37
スタンバイと休止状態	37
省電力の設定	40
スタンバイ／休止状態にする	41
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	42
ACPI のスタンバイモードを設定する	43
6 その他	45
Power MANagement for Windows	45
第 2 章 ソフトウェア	
1 ソフトウェア一覧	48
各ソフトウェアの紹介	49
アンインストール方法	58
2 ドライバ	59
3 Windows Update について	60
「Windows Update」を実行する	60

第3章 トラブルシューティング

1	トラブルに備えて	64
	テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	64
	Windows のセットアップ後の操作	64
	修正プログラムの適用について	65
	データのバックアップ	65
	コンピュータウイルス対策	65
	ドキュメントの確認	66
2	トラブル発生時の基本操作	67
	本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する	67
	以前の状態に戻す	67
	Safe モードで起動する	68
	ハードウェアの競合を確認する	69
	バックアップを行う	70
	メッセージなどが表示されたらメモしておく	70
3	起動・終了時のトラブル	71
4	OS・アプリケーション関連のトラブル	73
5	ハードウェア関連のトラブル	75
	BIOS	75
	メモリ	75
	内蔵 LAN	76
	ハードディスク	81
	CD/DVD	82
	フロッピーディスク	83
	SCSI カード	83
	本体カバーキー／サイドカバーキー	84
	ディスプレイ	84
	サウンド	86
	キーボード	87
	マウス	88
	プリンタ	88
	その他	88
6	リカバリ／再インストール	89
	リカバリ／再インストールを実行する前に	89
	リカバリ／再インストール後も状態が改善されない場合は	89
7	それでも解決できないときは	90
	お問い合わせ先	90

索引	91
----	----

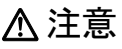
Memo

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

また、本文中の操作手順において、操作手順の類似しているものは、あわせて記述しています。

例：「スタート」ボタン→「(すべての)プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS 設定の表記

本文中の BIOS 設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「Power」メニューの「ACPI Save To RAM」の項目を「Enabled」に設定します。

↓

「Power」 - 「ACPI Save To RAM」: Enabled

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは2004年2月現在のものであります。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『取扱説明書』）。

■ カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、または OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
CELSIUS M420	M420	本ワークステーション	
CELSIUS J320	J320	ワークステーション本体	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows 注
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Microsoft® Windows® 2000 日本語版 Service Pack			
Microsoft® MS-DOS® operating system	MS-DOS		
Norton AntiVirus™ 2003	AntiVirus		
Sonic RecordNow DX	RecordNow		
Adobe® Reader® 6.0	Adobe Reader		
Matrox Millennium G450	Millennium G450		
ATI RADEON™ 9200 SE	RADEON 9200 SE		
ATI FIRE GL T2-64s	FIRE GL T2-64s		
NVIDIA Quadro® FX 1000	Quadro FX 1000		
NVIDIA Quadro® FX 2000	Quadro FX 2000		
3Dlabs Wildcat4 7110	Wildcat4 7110		

注：Windows XP/2000 のように併記する場合があります。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS-DOS、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Matrox、Matrox Millennium は、Matrox Graphics Inc. の商標です。

ATI、RADEON、FIRE GL は、ATI Technologies Inc. の商標です。

NVIDIA、NVIDIA Quadro は、NVIDIA Corporation の登録商標です。

3Dlabs と Wildcat は、3Dlabs, Inc. の米国および他の国における登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第 1 章

機能

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

1	セットアップ後	10
2	ディスプレイ関連	12
3	通信	31
4	ドライブ関連	33
5	省電力	37
6	その他	45

1 セットアップ後

セットアップ終了後に必要な設定について説明しています。

セットアップ後の設定

Windows のセットアップ終了後、次の項目を設定してください。

■ 全機種

- 「Windows Update を実行する」 (→ P.10)

■ カスタムメイドで SCSI HDD を選択した場合 (M420)

- 「機能」 - 「SCSI ドライバのバックアップ (M420)」 (→ P.10)

Windows Update を実行する

「Windows Update」を実行し、Windows の環境を最新の状態にすることをお勧めします。

「Windows Update」を実行することで、不具合のあるプログラムが修正されるほか、多くのコンピュータウイルスや不正アクセスからワークステーションを守ることができます。実行にあたっては、システム管理者の指示に従ってください。

「Windows Update」の実行方法については、「Windows Updateについて」(→P.60)をご覧ください。

SCSI ドライバのバックアップ (M420)

カスタムメイドの SCSI HDD を選択した M420 で、Windows 2000 を再インストールする場合は、あらかじめ SCSI ドライバのバックアップディスクを用意しておく必要があります。必ず作成してください。

■ 対象機種 / OS

カスタムメイドの SCSI HDD を選択した M420 / Windows 2000

■ SCSI ドライバのバックアップディスクの作成

次のものを用意してください。

- ドライバーズ CD
- 1.44MB フォーマット済 2HD フロッピーディスク 1 枚 (購入してください)
- フロッピーディスクのラベル 1 枚 (購入してください)

1 「ドライバーズ CD」とフロッピーディスクをセットします。

- 2** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 3** 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
`format a:`
- 4** 【Enter】キーを押します。
- 5** 「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されたら、【Enter】キーを押します。
- 6** 「別のディスクをフォーマットしますか？」と表示されたら、【N】キーを押し、【Enter】キーを押します。
- 7** 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
`cd /d [CD-ROMドライブ]:¥other¥scsi¥2k`
- 8** 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
`xcopy *.* a: /s /e /h`
- 9** 作成したバックアップディスクに、「Adaptec SCSI Card 29320-Ultra320 SCSI ドライバ」と記入したラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。

2 ディスプレイ関連

ディスプレイの設定について説明しています。

解像度と色数について

本ワークステーションでは、Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」または「ディスプレイの設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。

■ Millennium G450 の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）		
	最高・True Color（32 ビット）		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1600 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1920 × 1440	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）	—	
2048 × 1536	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）	—	

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）		
	最高・True Color（32 ビット）		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

■ RADEON 9200 SE の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）		
	最高・True Color（32 ビット）		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1600 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
1920 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1920 × 1440	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
2048 × 1536	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）		
	最高・True Color（32 ビット）		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

■ FIRE GL T2-64s の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	中・High Color (16 ビット)	—	○
	最高・True Color (32 ビット)		
800 × 600	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1024 × 768	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1280 × 1024	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1600 × 1200	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1920 × 1200	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1920 × 1440	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
2048 × 1536	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	中・High Color (16 ビット)	—	○
	最高・True Color (32 ビット)		
800 × 600	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1024 × 768	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1280 × 1024	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1600 × 1200	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		

■ Quadro FX 1000 の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)		
	最高・True Color (32 ビット)		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		
1280 × 768	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		
1600 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		
1920 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		
1920 × 1440	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		
2048 × 1536	256 色	—	○
	中・High Color (16 ビット)	○	
	最高・True Color (32 ビット)		

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）		
	最高・True Color（32 ビット）		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1600 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

■ Quadro FX 2000 の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）		
	最高・True Color（32 ビット）		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
1600 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1920 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1920 × 1440	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
2048 × 1536	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）		
	最高・True Color（32 ビット）		
800 × 600	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		
1600 × 1200	256 色	—	○
	中・High Color（16 ビット）	○	
	最高・True Color（32 ビット）		

■ Wildcat4 7110 の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	中・High Color (16 ビット)	—	○
	最高・True Color (32 ビット)		
800 × 600	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1024 × 768	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1280 × 1024	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1600 × 1200	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1920 × 1200	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1920 × 1440	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
2048 × 1536	中・High Color (16 ビット)	○	○

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度 (ピクセル)	色数	Windows XP	Windows 2000
640 × 480	中・High Color (16 ビット)	—	○
	最高・True Color (32 ビット)		
800 × 600	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1024 × 768	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1280 × 1024	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		
1600 × 1200	中・High Color (16 ビット)	○	○
	最高・True Color (32 ビット)		

POINT

- ▶ 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を大きくすると、設定できる色数は少なくなります。
- ▶ 必ず他のアプリケーションや常駐しているソフトウェアをすべて終了してから、解像度／色数を変更してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。再起動しない場合、本ワークステーションの動作が不安定になる場合があります。
- ▶ 色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切にリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。表示可能な解像度以外の解像度ではお使いにならないでください。表示可能な解像度はディスプレイのマニュアルでご確認ください。なお、すべてのディスプレイについて動作保証するものではありません。
- ▶ アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。
- ▶ FIRE GL T2-64s および Wildcat4 7110 は 256 色の発色数は設定できないため、256 色の発色数を必要とするアプリケーション（Windows Media Player での視覚エフェクトの全画面表示など）はお使いになれません。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

設定項目が表示されます。

3 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。

● Windows XP の場合

手順 5 へ進んでください。

● Windows 2000 の場合

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「新しいデスクトップ設定を適用します。」と表示されたら「OK」をクリックします。

5 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15 秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。

設定が有効になります。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、手順 3 に戻り再度解像度などを選択します。

■ 補足情報

「画面のプロパティ」ウィンドウ内には各ディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプを参照してください。通常は初期設定値でご使用ください。

マルチディスプレイ機能

本ワークステーションには、搭載しているグラフィックスカード 1 枚で、2 台のディスプレイを接続／表示できる「マルチディスプレイ機能」があります。

POINT

- ▶ 搭載しているグラフィックスカードのみでマルチディスプレイ機能を使うことができるので、本体にグラフィックスカードを増設する必要はありません。

■ 留意事項

- 本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を必ず入れてください。
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、本体の電源を入れる前に、デジタルディスプレイの電源が入っていることを必ず確認してください。本体の電源を入れたあとにデジタルディスプレイの電源を入れた場合、画面が表示されません。この場合、本体の電源を切り、その後に電源を入れ直してください。
- マルチディスプレイ機能を使用する場合、必ず Windows のセットアップを行ってから、もう一方のディスプレイケーブル (DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続含む) を接続してください。
- マルチディスプレイ機能には、次の 3 つの機能があります。

・クローン機能

プライマリディスプレイに表示されている画面をセカンダリディスプレイにも表示する機能です。各ディスプレイの設定（解像度、色数、リフレッシュレート）は、選択可能な範囲で同一に設定してください。

なお、表示可能な解像度が異なるディスプレイ 2 台でマルチディスプレイ機能を使う場合、表示は解像度が低いディスプレイに依存します。解像度が低いディスプレイにあわせて画面を設定してください。

・マルチモニタ機能

デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの 2 台のディスプレイを使って表示する機能です。

OS 上では、2 台のディスプレイとして認識されます。各ディスプレイの設定（解像度、色数、リフレッシュレート）は、選択可能な範囲でディスプレイごとに設定してください。

・スパン機能

デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの 2 台で 1 台のディスプレイとして表示する機能です。

OS 上では、1 台のディスプレイとして認識されます。1 台のディスプレイとして解像度の設定を行うようにしてください。

各グラフィックスカードの対応は次のとおりです。

	クローン機能		マルチモニタ機能		スパン機能	
	Windows XP	Windows 2000	Windows XP	Windows 2000	Windows XP	Windows 2000
Millennium G450	○	○	○	○	×	×
RADEON 9200 SE	○	○	○	○	×	×
FIRE GL T2-64s	○	○	○	○	×	×
Quadro FX 1000	○	○	○	○	○	○
Quadro FX 2000	○	○	○	○	○	○

	クローン機能		マルチモニタ機能		スパン機能	
	Windows XP	Windows 2000	Windows XP	Windows 2000	Windows XP	Windows 2000
Wildcat4 7110	×	×	○	○	×	×

- お使いになる前に、ディスプレイのマニュアルなどを参照し設定してください。
- DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合は、「DVI-VGA 変換アダプタ」が必要です。
- Millennium G450 でアナログディスプレイを2台接続する場合は、添付の「DVI-VGA 変換ケーブル」をお使いください。
- RADEON 9200 SE でアナログディスプレイを2台接続する場合は、添付の「マルチモニタケーブル」をお使いください。
- マルチディスプレイ機能を設定する場合は、設定を行う前に2台目のディスプレイを接続してください。2台目のディスプレイが接続されていない場合は、マルチディスプレイ機能を設定することができません。
- マルチディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。
- マルチディスプレイ機能を設定すると、ディスプレイを1台のみ接続してお使いになる場合に比べて表示性能が若干低下しますのでご注意ください。
- 接続されていないディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を有効にしないでください。正常に動作しない場合があります。
- ディスプレイを取り外した場合、取り外したディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を無効にしてください。
- ピンボールなどのゲームや Windows Media Player などのマルチディスプレイ機能での動作を保証していないアプリケーションを全画面表示した場合、アプリケーションを表示している画面以外のデスクトップの表示が正常に行われない場合があります。
- 動画再生ソフトによってはプライマリディスプレイの画面以外では動画の再生を行えない場合があります。その場合は、動画再生ソフトを最新版にアップデートしてください。

■ 用意するもの

- DVI-VGA 変換ケーブル（Millennium G450 の場合）
- マルチモニタケーブル（RADEON 9200 SE、FIRE GL T2-64s の場合）
- DVI-VGA 変換アダプタ（DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合）
- ディスプレイ

マルチディスプレイ機能を設定する

POINT

- ▶ 「XXXXX」は接続したディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ 各項目の詳細は、調べたい項目の上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数(単位は Hz)で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRT 等のアナログディスプレイではリフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが少なくなりますが、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは 85Hz 又は 75Hz、LCD 等のデジタルディスプレイでは 60Hz でご使用されることをお勧めします。

■ Millennium G450 の場合

□ クローン機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と Matrox Millennium G450 DVI - Japanese のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「DualHead」タブをクリックし、「機能」をダブルクリックします。
DualHead 機能の一覧が表示されます。
- 4** 「DualHead クローン」をクリックし、「設定の変更」をクリックします。
「DualHead クローン」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「ホットキー」をクリックします。
「Matrox PowerDesk のホットキー」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「スキームと機能」の「DualHead クローン」をクリックします。
- 7** 「キーボードショートカット」内をポイントし、クローン機能を使用するためのキー(例:【Ctrl】+【F10】キー)を押し、「保存」をクリックします。
- 8** 「閉じる」をクリックします。
- 9** 「OK」をクリックします。
- 10** 「OK」をクリックします。
- 11** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.12)をご覧ください。

「キーボードショートカット」で入力したキーを押すことによって、クローン機能を使用することができます。

入力したキーをもう一度押すと、クローン機能を無効にすることができます。

□ マルチモニタ機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXXX と Matrox Millennium G450 DVI - Japanese のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「DualHead」タブをクリックし、「機能」をダブルクリックします。
DualHead 機能の一覧が表示されます。
- 4** 「DualHead 複数モニタ」をクリックし、「設定の変更」をクリックします。
「DualHead 複数モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「DualHead 複数モニタを使用」をチェックします。
- 6** 「それぞれのモニタに別々の解像度のカラーパレットを使用」をチェックし、「OK」をクリックします。
再起動メッセージが表示されます。
- 7** 「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。
- 8** 再起動後、デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9** 「設定」タブをクリックします。
- 10** 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 11** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

■ RADEON 9200 SE の場合

□ クローン機能の場合

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXXX と RADEON 9200 SE のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「画面」タブをクリックします。
- 4**  ボタンをクリックします。

- 5 「OK」をクリックします。
「設定は適用されました。新しい設定を保存しますか?」と表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
- 7 「画面のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。
- 8 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

POINT

- ▶ 解像度と色数の設定は「1」のディスプレイに対して行うようにしてください。「2」のディスプレイに対して設定するとクローン機能が解除されてしまいます。

● 留意事項

- ・ プライマリボタンが有効   になっているディスプレイをプライマリモニタと呼び、クローンボタンが有効   になっているディスプレイをクローンモニタと呼びます。



- ・ コマンドプロンプトをフルスクリーンで利用する場合、プライマリモニタに表示されます。
- ・ クローンモニタの動画再生画面の表示方法を全画面表示やウィンドウ表示に切り替えることができます。次の手順で設定を変更してください。
 1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
 3. 「オーバーレイ」タブをクリックします。
「オーバーレイの警告」ウィンドウが表示された場合は「OK」をクリックしてください。
 4. 「シアターモード」をクリックします。
 5. 「OK」をクリックします。
 6. 「OK」をクリックします。

□ マルチモニタ機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4** 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

■ FIRE GL T2-64s の場合

□ クローン機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と ATI Fire GL T2 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「Dual Screen」タブをクリックします。

POINT

- ▶ ディスプレイを2台接続しないと、「Dual Screen」タブは表示されません。

- 4** 「クローン モード」をチェックし、「適用」をクリックします。
- 5** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

POINT

- ▶ 解像度と色数の設定は「1」のディスプレイに対して行うようにしてください。「2」のディスプレイに対して設定するとクローン機能が解除されてしまいます。

□ マルチモニタ機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「2」のディスプレイをクリックします。
- 3** 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。
- 4** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

■ Quadro FX 1000/Quadro FX 2000 の場合

POINT

- ▶ 2台のディスプレイを接続し、初めて電源を入れたときに、1台目のディスプレイに「NVIDIA nView ウィザード」が表示される場合があります。この場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

□ クローン機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXXX と NVIDIA Quadro FX 1000 のプロパティ」または「XXXXXX と NVIDIA Quadro FX 2000 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「Quadro FX 1000」タブまたは「Quadro FX 2000」タブをクリックします。
「XXXXXX と NVIDIA Quadro FX 1000 のプロパティ」または「XXXXXX と NVIDIA Quadro FX 2000 のプロパティ」ウィンドウの左側に、「メディアセンターメニュー」が表示されます。
- 4** 「nView」をクリックします。
- 5** 「nView モード」で「クローン」を選択し、「適用」をクリックします。
「ディスプレイ設定」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「OK」をクリックします。
「ディスプレイ設定の確認」ウィンドウが表示されます。
- 7** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 8** 「OK」をクリックします。
- 9** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

POINT

- ▶ Windows XP の場合、解像度と色数の設定は「1」のディスプレイに対して行うようにしてください。「2」のディスプレイで設定するとクローン機能が解除されてしまいます。

□ マルチモニタ機能の場合

- Windows XP の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「2」のディスプレイをクリックします。

3 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。

4 解像度と色数を設定します。

「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

● Windows 2000 の場合

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。

「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 1000 のプロパティ」または「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 2000 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「Quadro FX 1000」タブまたは「Quadro FX 2000」タブをクリックします。

「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 1000 のプロパティ」または「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 2000 のプロパティ」ウィンドウの左側に「メディアセンターメニュー」が表示されます。

4 「デスクトップ ユーティリティ」をクリックします。

5 「Dualview を有効にする」を選択し、「適用」をクリックします。

「ディスプレイ タイミング」ウィンドウが表示されます。

 POINT

- ▶ 「Dualview を有効にする」が選択されていると、クローン機能またはスパン機能の設定はできません。クローン機能またはスパン機能の設定を行う場合は、必ず「Dualview を有効にする」が選択されていないことを確認してください。

6 「今すぐ再起動する」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

7 再起動後、「ディスクの挿入」ウィンドウが表示された場合は、「ドライバーズ CD」をセットします。「コピー元」に「[CD-ROM ドライブ]:¥Display¥Quadro」と入力し、「OK」をクリックしてください。「新しいハードウェアの検出ウィザード」ウィンドウが表示されたら「完了」をクリックします。

再起動メッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてください。

 POINT

- ▶ ディスプレイドライバをハードディスクの任意のフォルダに保存している場合は、「参照」をクリックしてそのフォルダを指定してください。

8 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

9 「設定」タブをクリックし、「2」のディスプレイをクリックします。

10 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。

11 解像度と色数を設定します。

「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

□ スパン機能の場合

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。

「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 1000 のプロパティ」または「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 2000 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「Quadro FX 1000」タブまたは「Quadro FX 2000」タブをクリックします。

「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 1000 のプロパティ」または「XXXXX と NVIDIA Quadro FX 2000 のプロパティ」ウィンドウの左側に「メディアセンターメニュー」が表示されます。

4 「nView」をクリックします。

5 「nView モード」でお使いになる画面設定を選択します。

「水平スパン」: 2つの画面を横置きで1枚の画面として使用します。

「垂直スパン」: 2つの画面を縦置きで1枚の画面として使用します。

6 「水平スパン」または「垂直スパン」を選択し、「適用」をクリックします。

「ディスプレイ設定」ウィンドウが表示されます。

7 「OK」をクリックします。

「ディスプレイ設定の確認」ウィンドウが表示されます。

8 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。

「コントロールパネルを終了する必要があります ...」ウィンドウが表示されます。

9 「OK」をクリックします。

10 解像度と色数を設定します。

「解像度と色数について」(→ P.12) をご覧になり、設定してください。

POINT

- ▶ Windows XP の場合、解像度と色数の設定は「1」のディスプレイに対して行うようにしてください。「2」のディスプレイで設定するとスパン機能が解除されてしまいます。

■ Wildcat4 7110 の場合

□ マルチモニタ機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXXX と 3Dlabs Wildcat4 7110 プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「Wildcat の構成」タブをクリックします。
- 4** 「表示最大数」で「2」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
再起動メッセージが表示されます。
- 5** 「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。
- 6** 再起動後、デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「設定」タブをクリックし、「2」のディスプレイをクリックします。
- 8** 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。
- 9** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」（→ P.12）をご覧になり、設定してください。

3 通信

LAN など、通信関連について説明しています。

内蔵 LAN について

Windows セットアップ後に、お使いのネットワーク環境に合わせ、設定してください。

■ LAN を接続する

本ワークステーションにはLANデバイスが内蔵されています。1000BASE-TによるIEEE 802.3ab および、100BASE-TX による IEEE 802.3u に準拠した高速 LAN システムへ接続することができます。また、従来の10BASE-TによるLANシステムへ接続することも可能です。

⚠ 警告



- 近くで雷が起きたときは、ワークステーション本体の電源を切り、電源プラグやLANケーブルを取り外してください。
そのまま使用すると、雷によっては本ワークステーションを破壊し、火災の原因となります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ずLANコネクタに接続してください。
故障の原因となることがあります。

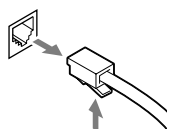
- 1 ワークステーション本体の電源を切ります（→『取扱説明書』）。
- 2 ワークステーション本体のLANコネクタ（→「各部名称」－「各部の名称と働き」）とネットワークを、LANケーブルで接続します。

👉 重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更してください（→P.37）。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるアプリケーションによっては、不具合が発生する場合があります。

 POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



コネクタの向きは機種により異なります。

4 ドライブ関連

ドライブ関連について説明しています。

ドライブ構成

Windows 2000 でファイルシステムを FAT から NTFS に変換する方法については、「ファイルシステムについて」(→ P.35) をご覧ください。

■ Windows XP の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 16GB 注1	NTFS
D	[総容量] - [C ドライブの容量]	NTFS
E	CD-ROM ドライブ注2	
F	光磁気ディスクドライブ	カスタムメイドオプション

注1：容量は、1GB = 1000³byte 換算値です。

注2：カスタムメイドオプションの場合は DVD-ROM&CD-R/RW ドライブです。

■ Windows 2000 の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 16GB 注1	FAT32
D	[総容量] - [C ドライブの容量]	NTFS
E	CD-ROM ドライブ注2	
F	光磁気ディスクドライブ	カスタムメイドオプション

注1：容量は、1GB = 1000³byte 換算値です。

注2：カスタムメイドオプションの場合は DVD-ROM&CD-R/RW ドライブです。

POINT

- ▶ 光磁気ディスク媒体に2つ以上の区画がある場合は、2つ目以降の区画にドライブ割り当てが必要です。「光磁気ディスク・ユーティリティ」でドライブを割り当ててください。

DMA の設定

■ 対象機種／OS

全機種／全 OS

■ DMA 設定対応表

デバイス	プライマリ IDE		セカンダリ IDE	
	マスタ	スレーブ	マスタ	スレーブ
M420	●	●	●	●
J320	●	—	●	—

●：ご購入時 DMA 設定
—：増設不可

■ 留意事項

DMA 転送をサポートしていないドライブを接続して DMA を設定した場合、正常な動作が保証されません。

■ DMA の設定方法

- 1 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 「IDE ATA/ATAPI コントローラ」をダブルクリックします。
- 4 「セカンダリ IDE チャンネル」または「プライマリ IDE チャンネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャンネルのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。
- 6 「DMA 設定対応表」を参照して設定を変更し、「OK」をクリックします。

ファイルシステムについて

■ ファイルシステムの概要

出荷時や Windows XP のリカバリ後は、ハードディスク上のシステムドライブは次のファイルシステムでフォーマットされています。

Windows 2000 の場合は、再インストール時にも、ファイルシステムの選択（FAT32 または NTFS）を行うことができます。

再インストールについては、添付の『取扱説明書』をご覧ください。

Windows XP : NTFS

Windows 2000 : FAT32

□ FAT と NTFS

FAT32 から NTFS に変換することで、セキュリティや信頼性を強化できます。

POINT

- ▶ NTFS に変換した場合、Windows XP/2000、Windows NT 4.0 以外の OS からは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。
- ▶ システムドライブ以外を FAT32 に設定することができますが、FAT32 にした場合、32GB 以上はサポートされません。

	Windows XP/2000	Windows NT 4.0	
		Service Pack4 以降	Service Pack3 以前
Windows XP/2000 の NTFS	○	○	×
Windows NT の NTFS	○	○	○
FAT32	○	×	×
FAT16	○	○	○

- ▶ NTFS に変換した場合、すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。
- ▶ フォーマットの形式やドライブの容量を変更した場合、変更したドライブの中身はすべて消えてしまいます。必要に応じてバックアップしてから、実行してください。
- ▶ FAT32 をサポートしていない OS (MS-DOS や Windows NT 4.0 など) からは FAT32 でフォーマットしたハードディスクを認識できません。このため、MS-DOS で作成された起動フロッピーからインストールを行うアプリケーションの場合、インストールに失敗するなどの問題が発生することがあります。

■ ファイルシステムの変換方法

□ 対応 OS

Windows 2000

□ 変換方法

ファイルシステムを FAT から NTFS に変換する方法を説明します。

一度ファイルシステムを NTFS に変換すると、FAT に戻すことはできません。

操作の前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

2 次のように入力します。

```
convert n: /fs:ntfs /v
```

(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)

3 【Enter】キーを押します。

- ・ブートパーティションを変換する場合

「次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N) ?」と表示されるので【Y】キーを押し、【Enter】キーを押した後、Windows を再起動します。Windows の再起動後にドライブが変換され、再度本ワークステーションが再起動します。

- ・拡張パーティションを変換する場合

ドライブが変換されます。

POINT

- ▶ ドライブにボリュームラベルが設定されている場合は、ボリュームラベルの入力を求められます。ボリュームラベルを入力して【Enter】キーを押してください。

5 省電力

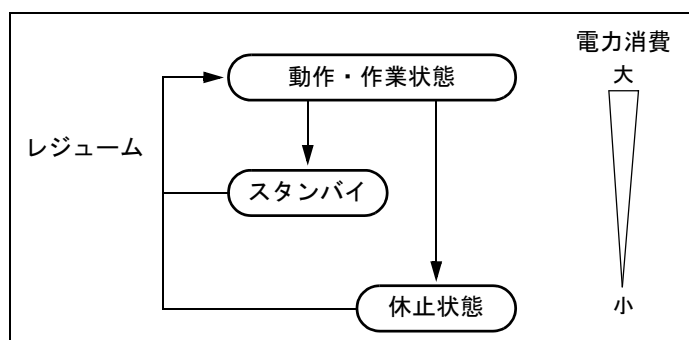
省電力について説明しています。

ご購入時は ACPI（Advanced Configuration and Power Interface）モードに設定されています。

ここでは、ACPI モードに関する留意事項と、スタンバイモードの変更方法（→ P.43）を説明します。

スタンバイと休止状態

「スタンバイ」または「休止状態」を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



● スタンバイ

実行中のプログラムやデータを、システム RAM（メモリ）に保持してワークステーションの動作を中断させます。スタンバイ中は、M420 では状態表示 LCD のスタンバイ表示マークが点灯し、J320 では電源ランプがオレンジ色に点灯します（→「各部名称」－「ワークステーション本体前面」）。「休止状態」よりも短い時間で、中断や回復（レジューム）を行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

● 休止状態

実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。そのため、「スタンバイ」よりも中断／回復（レジューム）にかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで設定する必要があります。

■ 留意事項

- ワークステーションをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンなどで本ワークステーションをスタンバイにしても、まれにすぐにレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。

- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- スタンバイ時／休止状態移行時／レジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイに移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない／スタンバイまたは休止状態からレジュームしない／レジューム後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
 - ・ OS の起動処理中または終了処理中
 - ・ ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブ等のアクセスランプが点灯中）
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・ CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ マウスの操作中
 - ・ ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
 - ・ OpenGL を使用するアプリケーションを実行中
- BIOS セットアップの Power メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、「BIOS」－「メニュー詳細」をご覧ください。
- 高度な省電力モード（ACPI S3）をサポートすることにより、ご購入時の状態では、スタンバイ時の消費電力を数ワットにすることを実現しています。
 事前に、接続する周辺機器が ACPI に対応しているか、また、ACPI S3 / ACPI S1 モード対応かを周辺機器のメーカーに確認してください。従来の周辺機器（プリンタ、USB 機器等）、または ACPI モードに対応していない周辺機器を接続すると、次の状態になる場合があります。
 - ・ 周辺機器が使用できない
 - ・ スタンバイ状態からレジュームできない
 - ・ 本体がスタンバイ状態から復帰した後に、正常に動作しない
 上記の状態になった場合は、「ACPI のスタンバイモードを設定する」（→ P.43）をご覧ください。また、内蔵オプションについても、ACPI S3 モードに対応していない場合があります。同様に、スタンバイモードを標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。
 なお、最新ドライバに変更することで ACPI に対応できる周辺機器もあります。詳細は周辺機器のメーカーに確認してください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。

- CD-ROM 読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能(Wakeup on LAN 機能)を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本ワークステーションがレジュームしてしまふことがあります。20 分以上の値に設定してください。
 1. 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウを表示します (→ P.40)。
 2. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。
- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スタンバイ時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、ワークステーション本体がレジュームすることがあります。
この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。
- プリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- スタンバイまたは休止状態へ移行させるときは、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.41)、などの操作）ではなく次のように設定することをお勧めします。この設定を行うと、ファイルアクセス中や通信中などに省電力状態になってしまうことを回避できます。
 - ・「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでの時間（例えば「30 分後」）を設定します。
- スタンバイへ移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイへ移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイへ移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合（スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。
 - ・ TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ ネットワーク環境で通信中に、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.41)、などの操作）によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合
 - ・ ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.41)、などの操作）によりスタンバイへ移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
xxxxxx(¥¥yyyyy)
このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」
- 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。

- 省電力設定は、ユーザ別に設定することが可能です。設定を変更するには、管理者権限が必要になる場合があります。システム管理者にお問合せください。
必要に応じ、「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」で設定してください。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイおよびシステム休止状態への移行はできません。

省電力の設定

■「電源オプションのプロパティ」の表示

本ワークステーションの電源を管理することができます。

1 次の操作を行います。

- Windows XP の場合
「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。
- Windows 2000 の場合
「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「電源オプション」をクリックまたはダブルクリックします。

「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

■ 設定を変更する

お使用の状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

□「電源設定」タブ

本ワークステーションの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。

スタンバイするまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。

「休止状態」タブで休止状態を選択した場合、休止状態までの時間は「システム休止状態」で設定してください。

□「詳細設定」または「詳細」タブ

電源ボタンを押したときの、ワークステーション本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています）。

次のように設定できます。

- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源ボタンを押したときの状態を設定できます。
- Windows XP : 「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」
Windows 2000 : 「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」
：スタンバイからレジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる設定を行います。

□「休止状態」タブ

本ワークステーションを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」または「休止状態をサポートする」をチェックすると、「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイ／休止状態にする

■ 終了ウィンドウを使う

終了ウィンドウを使用してスタンバイ／休止状態にする場合は、次の手順を行うようにしてください。

POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」での設定が必要な場合があります（→ P.40）。

1 「スタート」ボタンから次のメニューをクリックします。

Windows XP : 「終了オプション」

Windows 2000 : 「シャットダウン」

2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。Windows 2000 の場合は「OK」をクリックします。

しばらくすると各省電力状態に移行します。

POINT

- ▶ Windows XP の休止状態について

Windows XP の終了ウィンドウには、「休止状態」は表示されません。【Shift】キーを押すと、「スタンバイ」の項目が「休止状態」に変わります。

休止状態にする場合は、【Shift】キーを押しながら、「休止状態」を選択します。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

■ スタンバイおよび休止状態からのレジューム条件

ACPI モードの標準（ACPI S1）／高度（ACPI S3）のスタンバイおよび休止状態から、次の表で○になっているレジューム要因で通常の状態にレジュームさせることができます。

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外で標準（ACPI S1）／高度（ACPI S3）のスタンバイ状態からレジュームさせると、OS の仕様により画面が表示されない場合があります。その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、本ワークステーションは再度スタンバイ状態に移行します。

レジューム要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	ACPI モード高度 (ACPI S3)	休止状態 (ACPI S4)
電源ボタンを押す ^{注1}	○	○	○
PS/2 キーボードのキーを押す、 PS/2 マウスを動かす ^{注2}	○	×	×
USB キーボードのキーを押す、 USB マウスを動かす ^{注3}	○	○	○
タイマーでレジューム時刻指定する ^{注4}	○	○	○
LAN 着信 ^{注5}	○	○	○
モデム着信（Ring Indicator 信号） ^{注6}	○	×	×
PCI 拡張カード（PME# 信号）経由の着信 ^{注7}	○	○	○

注1：「電源オプションのプロパティ」－「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」または「電源オフ」に設定した場合でも、電源ボタンを押すとスタンバイからレジュームします。

注2：「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティで「電源の管理」タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

- ・ Windows XP：「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
 - ・ Windows 2000：「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
- PS/2 キーボード、PS/2 マウスのどちらか一方でも上記項目をチェックすると、PS/2 キーボード、PS/2 マウスのどちらを使用しても、スタンバイモードからレジュームします。

注3：「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。

- ・ Windows XP：「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- ・ Windows 2000：「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」

注4：「タスク」を使用した場合

注5：「デバイスマネージャ」－「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・ 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- ・ 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・ 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
- ・ 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

注6：通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

注7：PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード（PCI Revision 2.2 規格に準拠）を搭載した場合

ACPI のスタンバイモードを設定する

■ 対応機種／ OS

全機種／全 OS

■ 概要

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 高度 (ACPI S3) …メモリ以外の装置の動作を停止します。標準 (ACPI S1) と比較し、省電力に優れる一方でレジュームには時間がかかります。
- 標準 (ACPI S1) …CPU の動作を停止します。

ご購入時には、高度 (ACPI S3) に設定されています。スタンバイモードを変更する方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ 増設する周辺機器は高度 (ACPI S3) に対応している必要があります。
対応していない周辺機器を接続する場合は、標準 (ACPI S1) に切り替えてお使いください。

■ スタンバイモードを高度から標準に変更する

- 1 BIOS セットアップで、スタンバイモードを標準 (ACPI S1) に設定します (→ 「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」)。

● M420

「Power」－「ACPI Save To RAM」: Disabled

● J320

「Advanced」－「Power Management Setup」－「ACPI Suspend Type」: S1(POS)

POINT

- ▶ 上記の操作を行うと、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「電源オプションのプロパティ」で、再設定してください (→ P.40)。

■ スタンバイモードを標準から高度に変更する

標準から高度に変更するには、BIOS 設定を元に戻してください。

- 1 BIOS セットアップで、次の設定を変更します (→ 「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」)。

● M420

「Power」－「ACPI Save To RAM」: Enabled

● J320

「Advanced」－「Power Management Setup」－「ACPI Suspend Type」: S3(STR)

- 2 変更後、リカバリまたは、再インストールを実行します (→ 『取扱説明書』)。

 POINT

- ▶ M420 の場合は、「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックすると、BIOS 設定にかかわらず、スタンバイモードが標準（ACPI S1）になります。
 - ・ Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
 - ・ Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」

6 その他

Power MANagement for Windows

Power MANagement for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF（自動シャットダウン）」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」、「イベント連携」の機能を使用できます。PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（→ P.55）。

■ PMAN の機能

本ワークステーションで利用できる機能は、次のとおりです。

● スケジュール機能

カレンダースケジュールにより、ワークステーション電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wake on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入／切断（自動シャットダウン含む）を行うことができます。グループ指定（運用単位）により複数のワークステーションを一括して電源投入／切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows（コンソール）」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows（コンソール）」（別売）の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時（シャットダウン時）のイベントごとにユーザープロセス（プログラム、コマンドなど）を指定できます。イベント発生とアプリケーションを連携させることが可能です。たとえば、通常停止（電源切断）のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなアプリケーションの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- ▶ 本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。
- ▶ 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」－「詳細設定」タブまたは「詳細」タブ－「電源ボタン」の設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にアプリケーションの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。
- ▶ DHCP について（リモート電源制御機能使用時のみ）
本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。

- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

第 2 章

ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

1	ソフトウェア一覧	48
2	ドライバ	59
3	Windows Update について	60

1 ソフトウェア一覧

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。
- ▶ 選択したカスタムメイドオプションによっては、この他にソフトウェアが添付されることもあります。
- ▶ 添付されているソフトウェアは「ドライバーズ CD」、「リカバリ CD-ROM」などに格納されています。各ソフトウェアの紹介を参照してインストールしてください。
- ▶ 一部のソフトウェアはアンインストールできない場合があります。

◎：プレインストール（添付あり） ○：プレインストール（添付なし） △：添付のみ ー：添付なし

名称	Windows XP	Windows 2000
Microsoft Windows XP Professional (SP1a) (→ P.49)	◎	ー
Microsoft Windows 2000 Professional (SP4) (→ P.49)	ー	◎
Internet Explorer 6.0 SP1 (→ P.50)	○	○
Microsoft IME スタンダード 2002 (→ P.50)	○	ー
Microsoft IME2000 (→ P.50)	ー	○
DirectX9.0a (→ P.50)	○	○
viewdocs (→ P.50)	◎	◎
Adobe Reader (→ P.51)	◎	◎
3 モードフロッピーディスクドライバ (→ P.51)	◎	◎
光磁気ディスク・ドライバ (→ P.52)	◎	◎
光磁気ディスクイジェクトツール (→ P.52)	△	△
光磁気ディスクセキュリティツール (→ P.53)	◎	◎
RecordNow 注1 (→ P.53) / DLA 注1 注2 (→ P.53)	◎	◎
OS 追加プログラム (→ P.54)	○	○
AntiVirus (→ P.54)	△	△
Power MANagement for Windows (→ P.55)	△	△
FM-Menu (→ P.55)	△	△
Easy Backup (→ P.56)	△	△
ハードディスクデータ消去 (→ P.56)	△	△

プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください。

注1：カスタムメイドで DVD&CD-R/RW ドライブユニットを選択している場合

注2：Web ページよりダウンロードできます (→ P.53)。

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ▶ Windows XP では Windows 起動中に「ドライバーズ CD」、「リカバリ CD-ROM」などをセットすると、「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されます。「キャンセル」をクリックしてください。

■ Microsoft Windows XP Professional (SP1a)

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプか、添付されている『Microsoft Windows XP Professional ファーストステップガイド』をご覧ください。

□ 対象機種／ OS

全機種／ Windows XP Professional

□ SP1a のインストール

SP1a には、Windows XP に対する新しい修正が含まれています。
インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
c:\\$sp\$xp\$sp1a.exe
「Windows XP Service Pack1a セットアップウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「次へ」をクリックします。
- 4** 「追加使用許諾契約書」を読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

この後は、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows XP のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Microsoft Windows 2000 Professional (SP4)

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプか、添付されている『Microsoft Windows 2000 Professional クイックスタートガイド』をご覧ください。

□ 対象機種／ OS

全機種／ Windows 2000

POINT

- ▶ Windows 2000 のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Internet Explorer 6.0 SP1

☐ 概要

WWW ブラウザです。

☐ 対象機種／ OS

全機種／全 OS

■ Microsoft IME スタANDARD 2002

☐ 概要

日本語入力変換ユーティリティです。

☐ 対象機種／ OS

全機種／ Windows XP

■ Microsoft IME2000

☐ 概要

日本語入力変換ユーティリティです。

☐ 対象機種／ OS

全機種／ Windows 2000

■ DirectX9.0a

☐ 概要

マルチメディアの機能を拡張します。DirectX9.0a に対応したソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現します。

☐ 対象機種／ OS

全機種／全 OS

■ viewdocs

☐ 概要

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) に用意されている CELSIUS マニュアルを、本ワークステーションに保存し、閲覧、印刷できます。またサーバなどに保存して、マニュアルデータを共有することもできます。

□ 対象機種

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥app¥viewdocs¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Adobe Reader

□ 概要

PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ セットアップ中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

- 1** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥app¥acrobat¥adberdr60_jpn_full.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 3 モードフロッピーディスクドライバ

□ 概要

次の DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応 (1.44MB、1.23MB、1.2MB、720KB、640KB) のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。

□対象機種／OS

全機種／全OS

■ 光磁気ディスク・ドライバ

□概要

光磁気ディスクドライブユニット用のドライバです。

□対象機種／OS

M420／全OS

□インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 - Windows XP の場合
[CD-ROMドライブ]:¥other¥mo¥driver¥xp¥mosupple.msi
 - Windows 2000 の場合
[CD-ROMドライブ]:¥other¥mo¥driver¥2k¥mosupple.msi

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 光磁気ディスクイジェクトツール

□概要

光磁気ディスクイジェクトツールを利用することで、シャットダウン / 再起動 / スタンバイ / 休止状態 / ログオフ時の光磁気ディスク排出動作を設定することができます。

□対象機種／OS

M420／全OS

□インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥other¥mo¥eject¥nt_2k_xp¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 光磁気ディスクセキュリティツール

□ 概要

アクセス制御機能により、MO ディスクのユーザデータを保護することができます。

□ 対象機種／OS

セキュリティ対応光磁気ディスクドライブユニットが搭載されている機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「ドライバズ CD」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 - Windows XP の場合
[CD-ROM ドライブ]: %other%mo%security%xp%setup.exe
 - Windows 2000 の場合
[CD-ROM ドライブ]: %other%mo%security%9x_2k_me%setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ RecordNow

□ 概要

データ CD や音楽 CD を作成するためのアプリケーションです。使用方法是アプリケーション内のヘルプをご覧ください。

□ 対象機種／OS

カスタムメイドで、内蔵DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニットが搭載されている機種／全 OS

□ インストール方法

RecordNow はプレインストールされていますが、リカバリを行った場合、または Windows 2000 を再インストールした場合は、RecordNow を手動でインストールする必要があります。インストール方法については、添付の「RecordNow」CD-ROM 内の PDF マニュアルをご覧ください。

■ DLA

□ 概要

データ CD の作成の際、パケットライト機能が使用できるアプリケーションです。

□ 対象機種

カスタムメイドで DVD-ROM&CD-R/RW が搭載されている機種／全 OS

□インストール方法

POINT

- ▶ 本ワークステーションをインターネットに接続しておいてください。
- ▶ RecordNow をインストールしていない場合は、DLA のインストールの前にインストールしてください (→ P.53)。
- ▶ RecordNow Wizard のヘルプからは、サポートの Web ページを表示できません。

1 RecordNow を起動します。

2 「ヘルプ」メニュー→「Web のテクニカルサポート」の順にクリックします。
サポートの Web ページが表示されます。

3 Web ページ内の「ダウンロード」をクリックします。

この後は、メッセージに従って操作します。

■ OS 追加プログラム

□概要

次の修正プログラムがインストールされています。

- 出荷時にインストール済みのサービスパック以降に提供されたセキュリティの問題を解決するモジュールの適応

□対象機種／OS

全機種／全 OS

重要

- ▶ 「アプリケーション（プログラム）の追加と削除」で、「Hotfix」（または「ホットフィックス」）と記載されたモジュールを削除しないでください。

■ AntiVirus

□概要

コンピュータウイルスを検出・駆除します (→「トラブルシューティング」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.65))。

□対象機種／OS

全機種／全 OS

□インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥app¥nav¥setup.exe

インストールが始まります。メッセージに従って操作してください。

Windows 2000 では次の POINT を参照してください。

POINT

- ▶ 「サービスアカウント情報」ウィンドウでは、管理者権限を持った「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

■ Power MANagement for Windows**□ 概要**

本ワークステーションの電源を制御できます (→ P.45)。

□ 対象機種／ OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめ IP アドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いの LAN ドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。**2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。****3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**

[CD-ROMドライブ]:¥app¥pman¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ FM-Menu**□ 概要**

ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。

□ 対象機種／ OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 - Windows XP の場合
[CD-ROM ドライブ]:¥app¥fmmenu¥xp¥setup.exe
 - Windows 2000 の場合
[CD-ROM ドライブ]:¥app¥fmmenu¥2k¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Easy Backup

□ 概要

インターネットの設定や電子メール、お客様が作成したファイルなどを、簡単な操作でまとめてバックアップできるアプリケーションです。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:¥app¥easybup¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

使用方法については、ヘルプまたはソフトウェア説明書をご覧ください。

■ ハードディスクデータ消去

□ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」－「ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」をご覧ください。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ 留意事項

- 本ツールでは、本ワークステーションに内蔵されている基本ハードディスクのみを対象としています。このため、増設したハードディスクのデータを消去することはできません。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。

- 実行中に電源を切らないでください。ハードディスクが壊れる可能性があります。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。

□ Windows XP の場合

Windows XP で、ハードディスク内のデータを消去する方法を説明します。
次のものを用意してください。

- リカバリ CD-ROM1

- 1 「リカバリ CD-ROM1」をセットします。**
- 2 本ワークステーションを再起動します。**
- 3 「CELSIUS」ロゴの下に文字が表示されている間に、【F12】キーを押します。**
メニューが表示されます。表示されない場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。
- 4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。**
「リカバリメニュー」画面が表示されます。
- 5 「ハードディスクデータ消去」を選択し、【Enter】キーを押します。**
ハードディスクデータ消去に関する注意事項が表示されます。

この後は、メッセージに従って、操作を続けてください。

「データ消去が完了しました。」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM1」を取り出し、本ワークステーションの電源ボタンを4秒以上押して電源を切ります。

□ Windows 2000 の場合

Windows 2000 で、ハードディスク内のデータを消去する方法を説明します。
次のものを用意してください。

- ハードディスクデータ消去フロッピー

POINT

- ▶ ハードディスクデータ消去フロッピーは、次の手順で作成することができます。
 1. MS-DOS 起動フロッピーを用意します。
MS-DOS 起動フロッピーがお手元ない場合は、添付の「Windwos 2000 Professional CD-ROM」の¥valueadd¥3rdparty¥ca_antiv¥makedisk.bat から、MS-DOS 起動フロッピーを作成することができます。
 2. 「ドライバーズ CD」とMS-DOS 起動フロッピーをセットします。
 3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
 4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:¥other¥hdclear
 5. 「Hdclear」フォルダが開きます。
 6. 「Hdclear」フォルダ内の「hdclear.exe」を、MS-DOS 起動フロッピーにコピーします。
 7. 「ドライバーズ CD」とMS-DOS 起動フロッピーを取り出してから、本ワークステーションの電源を切ります。

以上で、ハードディスクデータ消去フロッピーの作成が完了しました。
作成したフロッピーディスクは、書き込み禁止の状態にてお使いください。

1 ハードディスクデータ消去フロッピーをセットして、本ワークステーションの電源を入れます。

「InoculateIT Antivirus AVBoot バージョン 1.1」が表示されます。

 POINT

▶ キーボードの選択画面が表示された場合は、【半角/全角】キーを押します。

2 【3】キーを押した後、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

`hdclear.exe`

注意事項が表示されます。

この後は、メッセージに従って操作してください。

「データ消去が完了しました。」と表示されたら、ハードディスクデータ消去フロッピーを取り出し、本ワークステーションの電源ボタンを4秒以上押して電源を切ります。

アンインストール方法

■ 留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のアプリケーションで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

この DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または `Readme.txt` などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する

アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。

- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する

「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」または「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または `Readme.txt` などの説明ファイルをご覧ください。

2 ドライバ

重要

- ▶ 本ワークステーションに添付されている「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリまたは、OS の再インストールが必要となることがあります。

Windows XP の場合、リカバリ後は、グラフィックスドライバのみインストールする必要があります。その他のドライバを再インストールする必要はありません。なんらかの理由でドライバを削除または破損した場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。

Windows 2000 の場合、OS の再インストールを行っても、ドライバはインストールされません。OS の再インストール後、ドライバをインストールする場合は、添付の『取扱説明書』の手順に従って操作してください。

個々のドライバをインストールする手順は、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧ください。

重要

- ▶ すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。ただし、ドライバーズ CD の Update フォルダ内に最新ドライバが格納されている場合がありますので、必要に応じてインストールしてください。

□ Windows XP の留意事項

- LAN ドライバのインストール中、複数のドライバ名称が表示される場合があります。その場合、何も変更せずに「OK」をクリックしてください。

3 Windows Update について

「Windows Update」は、Windows を常に最新の状態に整えるサポート機能です。

「Windows Update」を実行すると、Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新、修正できます。

また、最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。

なお、「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作を保証するものではありません。

POINT

- ▶ Windows Update はシステム管理者の指示に従って行ってください。システム管理者は、以下の点にご注意ください。
 - ・「重要な更新」については、適用されることをお勧めします。
 - ・「ドライバの更新」は適用しないでください。ただしお客さまが追加されたデバイスについてはお客様の判断で適用してください。
 - ・自動更新機能を使うと、Windows Update を自動的に行う設定をすることができます。設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。出荷時は「コンピュータを常に最新の状態に保つ」が ON になっています。必要に応じて設定を変更してください。

「Windows Update」を実行する

1 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

● Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「Windows Update」をクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

2 「更新をスキャンする」をクリックします。

ワークステーションの状態を診断し、更新情報を取得します。

3 「更新の確認とインストール」をクリックします。

更新情報のリストが表示されます。

POINT

- ▶ インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

4 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目にある「削除」をクリックします。

通常は、「重要な更新」についてはすべての項目を更新することをお勧めします。

5 「今すぐインストールする」をクリックします。

修正プログラムがインストールされます。

更新が完了します。

POINT

- ▶ ほかの修正プログラムとは別にインストールが必要な修正プログラムがある则表示されたら、画面に従って進みます。インストール終了後は再度手順 1 から「Windows Update」を実行します。

修正プログラムの使用許諾契約が表示されたら、内容を確認し、「同意します」をクリックします。

Windows の再起動を要求する画面が表示されたら、「OK」をクリックして再起動します。

Memo

第3章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1	トラブルに備えて	64
2	トラブル発生時の基本操作	67
3	起動・終了時のトラブル	71
4	OS・アプリケーション関連のトラブル	73
5	ハードウェア関連のトラブル	75
6	リカバリ／再インストール	89
7	それでも解決できないときは	90

1 トラブルに備えて

ここでは、トラブルを未然に防ぐために注意すべき点や、もしものときに備えて事前に準備すべき点について、説明します。

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点にご注意ください。

■ 本ワークステーションの注意事項

- 本体カバーを外した状態でお使いにならないでください。
- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本ワークステーションや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、ドライバの再インストールに備えてバックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

- 「機能」－「SCSI ドライバのバックアップ (M420)」(→ P.10)
- 「ソフトウェア」－「Windows Update」を実行する(→ P.60)

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本ワークステーションに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前には **Readme.txt** などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社の富士通パソコン情報サイト **FMWORLD.NET** のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われる場合があります。必要なデータはフロッピーディスクやMOなどの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの1つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる(感染する)と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

■ AntiVirus

本ワークステーションにはウイルスを発見するためのソフトとして、**AntiVirus** が添付されています。電子メールに添付されたファイルや入手したフロッピーディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえでお使いください。

AntiVirus はご購入時にはインストールされていません。必要に応じて、「ソフトウェア」→「ソフトウェア一覧」(→P.48)をご覧ください。また、**AntiVirus** の使用方法については、ヘルプをご覧ください。

□ 留意事項

- 「**AntiVirus**」を起動していると、アプリケーションが正常にインストールされなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「**AntiVirus**」を使用不可にしてください。
 - ・ 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。
「スタート」ボタン→「(すべての) プログラム」→「**Norton AntiVirus**」→「**Norton AntiVirus 2003**」の順にクリックします。
「**Norton AntiVirus**」ウィンドウで「オプション」をクリックし、「Auto-Protect を有効にする」のチェックを外して、「OK」をクリックします。
 - ・ 「**Norton AntiVirus**」のアイコンが通知領域またはタスクトレイに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。

- AntiVirus でコンピュータウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- 本ワークステーションをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- AntiVirus は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。
スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の AntiVirus をご購入ください。

■ コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやアプリケーションのインストールを行う場合は、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア／ソフトウェア要件
使用したい周辺機器やアプリケーションが本ワークステーションのハードウェア構成やOSで利用できるか確認します。
- 取り付け時やインストール時に注意すべき点
特に readme.txt や install.txt などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。
また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。
- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報
- 問題が解決されたドライバやアプリケーションの修正モジュール

弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ（<http://www.fmworld.net/biz/>）でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

ここでは、トラブル発生時にまず行うべき操作を説明します。

本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本ワークステーションや周辺機器の電源が入っているかを確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？ 他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物をのせていませんか？ キーが押され、ワークステーションが正常に動作しないことがあります。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付け、アプリケーションのインストールを行った直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- アプリケーションをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、readme.txt などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→ P.66）。発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

■ 前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

□ Windows XP の場合

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「CELSIUS」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。

【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3 「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択し、【Enter】キーを押します。
画面の指示に従って操作します。

□ Windows 2000 の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。
- 3 「前回正常起動時の構成」を選択し、【Enter】キーを押します。
画面の指示に従って操作します。

Safe モードで起動する

Windows が起動しない場合、Safe モードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

■ Windows XP の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「CELSIUS」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4 「Microsoft Windows XP」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
- 5 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.59）をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

■ Windows 2000 の場合

- 1** 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2** 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。
- 3** 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4** 「Microsoft Windows 2000」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
- 5** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
「Administrator のパスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6** 「OK」をクリックします。
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.59) をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

ハードウェアの競合を確認する

周辺機器を正しく取り付けたにもかかわらず動作しない場合、ハードウェア (IRQ) の競合が起っていないか確認してください。

確認方法は次のとおりです。

- 1** 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3** 競合しているデバイスを確認します。
競合しているデバイス名にはエクスクラメーションマーク (!) が表示されています。
または、×印が表示されている場合もあります。

4 競合しているデバイスがある場合、IRQ を変更してください。

変更方法については、「スタート」メニューに登録されているヘルプで調べることができます。

また、デバイスに添付されているマニュアルもあわせてご覧ください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本ワークステーションの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルのエラーメッセージ集などで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

3 起動・終了時のトラブル

□ ビープ音が鳴った

電源を入れた後の POST（自己診断）時に、ビープ音が鳴る場合があります。ビープ音が鳴る原因と対処方法は、『取扱説明書』をご覧ください。

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の POST（自己診断）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『取扱説明書』をご覧ください。

□ 電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- 電源スイッチ付きの AC タップをお使いの場合、AC タップの電源は入っていますか？

□ 画面に何も表示されない

- ワークステーション本体の電源は入っていますか？
- ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットもしくはコンセントに接続されていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・1 台目のディスプレイは、コネクタ「1」に接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットに接続されていますか？
 - ・ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
 - ・デジタルディスプレイを使用する場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
 - ・セットアップ前に、2 台目のディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください（→ P.21）。
- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

マウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。

・ Windows XP の場合

1. **【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】** キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
2. 「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
Windows が強制終了されます。

 POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.81）。

・ Windows 2000 の場合

1. **【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】** キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「シャットダウン」をクリックします。
Windows が強制終了されます。

 POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.81）。

もし上記の操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れてください。

4 OS・アプリケーション関連のトラブル

□ Windows が起動しなくなった

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.67）。
もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- Safe モードで起動できますか？
いったん Safe モードで起動し（→ P.68）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。
- Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本ワークステーションを再起動してください。

□ プログラムが動かなくなってしまった

- 次の手順でプログラムを終了させてください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 2. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
 3. 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.81）。

・ Windows 2000 の場合

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「タスクマネージャ」をクリックします。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
4. 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.81）。

□ Windows の動作が不安定になった

- ログオン後すぐに「コントロールパネル」ウィンドウ「管理ツール」内の「コンポーネントサービス」を起動し、「コンソールルート」－「コンポーネントサービス」－「コンピュータ」を開こうとすると、まれにアプリケーションエラーが起きることがあります。このエラーが起これば、本ワークステーションの動作が不安定になります。この場合は、本ワークステーションを再起動してください。再起動後は問題なくお使いになります。
なお、「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」はログオン後 10 分ほど経過してから開くようにしてください。
- 古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本ワークステーションおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本ワークステーションに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fmwORLD.net/biz/>) でその最新版を入手して使用してください。
また、本ワークステーションに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。
- お使いの機種によりサポートするOSが異なります。サポートされていないOSはお使いになりません。

□ 省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」（→ P.37）をご覧ください。

□ 周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.59）をご覧ください。ドライバを再インストールしてください。

□ アプリケーションのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。
- 市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Adobe Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本ワークステーションにプレインストールされている Adobe Reader 6.0 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。バージョンをご確認のうえ、Adobe Reader 6.0 をインストールし直してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

BIOS

□ 管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

□ エラーメッセージが表示された

本ワークステーション起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、『取扱説明書』をご覧ください。

メモリ

□ メモリサイズが小さく表示される

「システムのプロパティ」ウィンドウで表示されるメモリサイズは、搭載メモリサイズより若干少なく表示されます。

□ 仮想メモリが足りない

仮想メモリ（ページングファイル）の設定を行います。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
FAT32	4GB	Windows 2000 モデル出荷時 ブートパーティション
NTFS	パーティションサイズ と同じ	Windows XP モデル出荷時 ブートパーティション

- ▶ 仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。
初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍
最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2** 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「詳細」タブをクリックし、「パフォーマンスオプション」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。
- 4** Windows XP では、「詳細設定」タブをクリックします。
- 5** 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
- 6** ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 7** 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 8** 「OK」を 3 回クリックします。
- 9** 本ワークステーションを再起動します。

内蔵 LAN

□ ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
ワークステーション本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して次の項目を確認してください。
 - ・ ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・ 100Mbps で通信している場合、エンハンスドカテゴリ 5 のケーブルを使用してください。
 - ・ 10Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 のケーブルを使用してください。

- 内蔵 LAN に関して次の項目を確認してください。
 - ・ハードウェアの競合が起こっていませんか？ (→ P.69)
 - ・LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.59) をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。


```
ping xxx. xxx. xxx. xxx
```

(xxx には IP アドレスを入力します)
- ハブに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・リンク速度、デュプレックスの設定は、ワークステーション側の設定と合っていますか？
- Windows 2000 セットアップ時にネットワーク識別ウィザードが自動的に起動されますが、このとき「戻る」をクリックしないでください。再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント(クライアント/サービス/プロトコル)をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

□ ネットワークアダプタ名が同じ名前が表示される

複数 LAN カードを使用している場合、デバイスマネージャで表示されるネットワークアダプタ名が同じ名前が表示され、ネットワークアダプタの判別が困難なため、設定環境の構築ができないことがあります。

この場合、次の手順によりネットワークアダプタを判別し、設定を行います。なお、設定内容については、ドライバに添付されている readme.txt および install.txt を参照してください。

● Windows XP の場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ネットワークとインターネット接続」アイコンをダブルクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」ウィンドウが表示されます。
3. 「コントロールパネルを選んで実行します」から「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。
4. 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。
LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
5. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

6. 「構成」をクリックします。

「LAN デバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

 POINT

- ▶ LAN デバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバの更新は、「ドライバ」タブで行います。

● Windows 2000 の場合

1. デスクトップの「マイネットワーク」アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。

2. 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。

LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。

3. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4. 「構成」をクリックします。

「LAN デバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

 POINT

- ▶ LAN デバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバの更新は、「ドライバ」タブで行います。

□ 1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い

- LAN デバイスで速度は正しく設定されていますか？
- お使いのネットワークケーブルやハブは 1000BASE-T に対応していますか？

□ ハブユニットの Link ランプが点灯しない、通信できない、通信が異常に遅い

ハブユニットの仕様や設定に合わせてアダプタの設定を変更してください。

「リンク速度とデュプレックス」を「自動検出」からハブユニットに合った通信速度に変更してください。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。

● Windows 2000 の場合

「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。

「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

5 次のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection

6 「詳細設定」タブをクリックします。

・スピードとデュプレックスの設定

本ワークステーションをハブユニットに接続したとき、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない場合は、次の設定を変更してください。

リンク速度とデュプレックス：「プロパティ」の「リンク速度とデュプレックス」をクリックし、「値」から通信速度／通信方式を指定します。

1000Mbps/ 全二重通信 … 1000Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/ 全二重通信 … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/ 半二重通信 … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

10Mbps/ 全二重通信 … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

10Mbps/ 半二重通信 … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。
自動検出 … ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

 POINT

- ▶ 本ワークステーションを全二重通信（Full Duplex）に設定する場合は、ハブユニット側も同様の設定にする必要があります。

・ローカルアドレスの設定

ローカルアドレスを使用する場合は、次の設定を変更してください。

ローカル管理されるアドレス：「プロパティ」の「ローカル管理されるアドレス」をクリックし、「値」に「02」で始まる 16 進 12 桁を入力します。

グローバルアドレスに戻したい場合は、「値」に「0」を入力します。なお、設定する値については、ネットワーク管理者に確認してください。

7 「OK」をクリックします。**8** すべてのウィンドウを閉じます。**□ Wakeup on LAN 機能** **POINT**

- ▶ Wakeup on LAN 機能は、スタンバイ状態や休止状態からの復帰に使用します。LAN 経由の電源 ON/OFF には PMAN（→ P.55）を使用してください。

ネットワーク環境下で Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。**2** 次の操作を行います。

- Windows XP の場合
「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
- Windows 2000 の場合
「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5** 次のデバイスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection
- 6** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7** 次の2つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
 - Windows XP の場合
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする
 - Windows 2000 の場合
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする

Wake up on LAN 機能を使用すると、ネットワーク状態を最新の情報に更新するためにコンピュータが定期的にアクティブになることがあります。そのため、不適切なときにコンピュータがアクティブになったりする可能性があります。そこで、省電力モードへの移行については、次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 3** 「電源オプション」アイコンをクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「電源設定」タブの「システム スタンバイ」または「システム休止状態」を「20分後」以上に設定します。

 POINT

- ▶ 設定値が20分より短いと、ワークステーション本体が省電力モードに移行していても他のコンピュータからの接続確認データを受信して、省電力モードから復帰してしまう場合があります。なるべく20分よりも長い値を設定してください。

ハードディスク

□ ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出ていませんか？
『取扱説明書』をご覧ください。

□ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- 次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. Windows XP では、「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。Windows 2000 では、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合は、「次のコンピュータの再起動時に、このディスクの検査を実行しますか？」または「次のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリまたは、再インストールしてください（→『取扱説明書』）。

□ NTFS 区画のドライブに CHKDSK コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される (Windows 2000)

- 次の手順で CHKDSK コマンドを実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
 2. プロンプトから次のように入力し、【Enter】キーを押します。

`chkdsk /f [NTFS区画のドライブ]`

この手順を行った後は、オプションなしの CHKDSK コマンドを実行してもエラーメッセージは表示されません。

なお、ハードディスクのチェックは、CHKDSK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

□ その他

- ディスクアドミニストレータがディスクにアクセスできるようにするために、初めてディスクアドミニストレータを起動したとき、ディスクに署名を書き込む必要があります。次の手順で署名を書き込んでください。
 1. ディスクアドミニストレータを起動します。
「ディスクアドミニストレータ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「OK」をクリックします。
「確認」ウィンドウが表示されます。

3. 「はい」をクリックします。

ディスクに署名が書き込まれ、ディスクアドミニストレータでディスクにアクセスできるようになります。

CD/DVD

□ ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷ついていたたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

□ ディスクが取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか？
本ワークステーションの内蔵ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
なお、なんらかの原因でトレイが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウのディスクアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、内蔵ドライブユニット前面のディスク取り出しボタン横にある穴を、曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）でつついてください。

□ DVD の再生が円滑に行われない

- DVD 再生ソフトを正しくインストールしましたか？
DVD 再生ソフトをインストールしてください。
- DMA 転送は有効に設定していますか？
「DMA の設定」（→ P.34）の操作をご覧になり、DMA 転送を有効にしてください。その後、すべてのアプリケーションを閉じ、ワークステーション本体を再起動してください。
- 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
いったんアンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、DVD 再生ソフトを再インストールしてください。
- Wave 音源の再生または AVI ファイル等の映像再生をしていませんか？
Wave 音源または AVI ファイル等の映像と同時再生はできません。

□ ディスプレイに DVD の再生画面が表示されない。

- ワークステーション本体がマルチモニタ機能を使用していませんか？
マルチモニタ機能に設定している場合、DVD の再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

□ DVD の再生音が小さい。

- ワークステーション本体のボリュームの設定は正しいですか？
DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。OS の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」の設定を調節してください。

フロッピーディスク

□ フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか？
ディスクのシャッタのある側から、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ディスクはフォーマットしてありますか？
ディスクをフォーマットしてください。
- ディスクは、1.44MB または 720KB (Windows 2000 の場合) の容量にフォーマットしてありますか？
上記以外のフォーマットのディスクを使う場合は、3 モードフロッピーディスクドライバをインストールしてください (→ P.51)。
- BIOS セットアップの項目を正しく設定していますか？ (→ 「BIOS」)
- ディスクが書き込み禁止になっていませんか？
ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。
- 別のディスクは使用できますか？
別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。
- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか？
クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください (→ 「ハードウェア」 - 「フロッピーディスクドライブのお手入れ」)。

□ Windows XP でフロッピーディスクを 720KB でフォーマットできない

- Windows XP では、フロッピーディスクを 1.44MB 以外の容量にフォーマットできません。

SCSI カード

□ SCSI カードを使用して SCSI 機器を接続したが、Windows から認識できない

- SCSI カードのドライバはインストールされていますか？ 次の手順に従って確認してください。
 1. Windows XP では、「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
Windows 2000 では、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックします。

3. 「デバイスマネージャ」をクリックし、SCSI コントローラが登録されているか確認します。

登録されていない場合、「ハードウェア」タブの「ハードウェアの追加ウィザード」または「ハードウェアウィザード」をクリックし、SCSI カードの検出を行い、ドライバをインストールしてください。

- SCSI 機器の電源は、ワークステーション本体の電源を入れる前に入れましたか？ワークステーション本体の電源より先にSCSI機器の電源が入っていないと、正しく認識されません。
- SCSI 機器の機器 ID は正しく設定されていますか？
複数の SCSI 機器に同じ機器 ID を設定すると、正しく認識されません。

本体カバーキー／サイドカバーキー

□ 本体カバーキー／サイドカバーキーをなくしてしまった

- 本体カバーキー／サイドカバーキーを紛失した場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
本体カバーキー／サイドカバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

ディスプレイ

□ 画面に何も表示されない

- 省電力モードが設定されていませんか？
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
状態表示 LCD のスタンバイ表示マークが点灯している場合、ACPI モードの高度 (ACPI S3) / 標準 (ACPI S1) に移行している可能性があります。ワークステーション本体の電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
- 「起動・終了時のトラブル」(→ P.71) もご覧ください。

□ ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？
ディスプレイの角度を調節してください。
- 明るさなどを調節しましたか？
明るさをブライトネスボリュームで調節してください。

□ 表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次のように操作してください。
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.59) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、Safe モードで起動してからインストールを行ってください (→ P.68)。

- アプリケーションを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectX を使用した一部のアプリケーション使用時
- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出すことがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系アプリケーションなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、又はリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください（→ P.64）。

□ 画面の両サイド、上下が欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンで、画面サイズを調整してください。

□ リカバリまたは、再インストール後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

- 次の手順で設定し直してください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「ドライバーズ CD」をセットします。

POINT

- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。
- 3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4. 「設定」タブの「詳細設定」をクリックします。
- 5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
- 6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7. 「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」をクリックし、「次へ」をクリックします。

8. 「リムーバブルメディア（フロッピー、CD-ROM など）を検索」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
9. 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 「.. インストールしようとしているソフトウェアは、Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません。」と表示されたら、「続行」をクリックしてください。
10. 「完了」をクリックします。
 11. すべてのウィンドウを閉じます。
- ・ Windows 2000 の場合
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
 3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「設定」タブの「詳細」をクリックします。
 5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
 6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ウィンドウが表示されます。
 7. 「次へ」をクリックします。
 8. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
 9. 「CD-ROM ドライブ」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
 10. 「次へ」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されたら、「はい」をクリックしてください。
11. 「完了」をクリックします。
 12. すべてのウィンドウを閉じます。

□ その他

- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。特に 3D グラフィックスを使用する場合は、大量のメモリを消費するため、性能が低下することがあります。

サウンド

□ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・ スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？

- ・スピーカーの電源スイッチは入っていますか？
- ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
- OS の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。
- ハードウェアの競合が起きていませんか？（→ P.69）
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？ 必要に応じて、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」でお使いのサウンドドライバのフォルダ名を確認し、フォルダ内の「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧になり、再インストールしてください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションには、内蔵スピーカーが搭載されています。
ハードウェアの音量ボリュームはありません。音量を調節したい場合は、通知領域またはタスクトレイの「音量」アイコンをクリックし、音量を調節する画面を表示して調節してください。
なお、内蔵スピーカーは音声の確認には使用できますが、より高い音質を望む場合は、外付けのスピーカーを使用されることをお勧めします。

キーボード

□ キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？

□ 押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？
キーボード上のインジケータで、【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」アイコンをクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
 - ・ Windows 2000 の場合
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「キーボード」アイコンをダブルクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「入力ロケール」タブの「インストールされている入力ロケール」のウィンドウで、正しい日本語 IME が設定されているか確認します。

マウス

□ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？
マウス内部をクリーニングしてください。

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください（→ P.71）。
- マウスの中ボタンが動作しない
標準添付されている 3 ボタンマウスの中ボタンは、3 ボタン対応アプリケーションを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・ プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・ プリンタの電源は入っていますか？
 - ・ プリンタドライバは正しくインストールされていますか？ プリンタのマニュアルをご覧ください。再インストールしてください。
 - ・ ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.76）

その他

□ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ（<http://www.fmworld.net/biz/>）で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 リカバリ／再インストール

ここでは、リカバリまたは、再インストールに関する補足情報を説明します。リカバリまたは、再インストールの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

リカバリ／再インストールを実行する前に

■ 前回正常起動時の構成に戻す

前回正常起動時の構成に戻せるか確認してください（→ P.67）。

■ Safe モードでの起動

Safe モードで起動できるか確認してください（→ P.68）。

■ ドライバのインストール

なんらかの理由で、ドライバが正しくインストールされなかったり、正常に動作しなかったりした場合は、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.59）をご覧ください、ドライバを再インストールしてください。

リカバリ／再インストール後も状態が改善されない場合は

リカバリまたは、再インストール後も状態が改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

7 それでも解決できないときは

どうしても解決できない場合は、『取扱説明書』で各種窓口の連絡先をご確認のうえ、お問い合わせください。

ここでは、『取扱説明書』に記載されていない、ソフトウェア関連の連絡先を記載しています。

お問い合わせ先

本ワークステーションに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2004年2月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。

- Norton AntiVirus 2003

- ・ 株式会社シマンテック

- シマンテックテクニカルサポートセンター

- 本センターをご利用いただくためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートをご購入いただくか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

- ユーザー登録ホームページ：<http://www.symantecstore.jp/oem/fujitsu/>

- サポートサイト：<http://www.symantecstore.jp/oem/fujitsu/>

- 電話：テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

- 受付時間：10:00～17:00（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）

- FAX：テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

- Adobe Reader 6.0

- ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- アプリケーション（カスタムメイドオプション）

- 各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

- その他 CELSIUS シリーズの技術的なご質問・ご相談

- 富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口

- （添付の『取扱説明書』をご覧ください）

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

索引

記号

3 モードフロッピーディスク
ドライバ..... 48, 51

A

ACPI 37
Adobe Reader 48, 51
AntiVirus 48, 54, 65

D

DirectX9.0a..... 48, 50
DLA 48, 53
DMA の設定 34

E

Easy Backup 48, 56

F

FM-Menu 48, 55

I

Internet Explorer 6.0 SP1 48, 50

L

LAN 31

M

Microsoft IME2000..... 48, 50
Microsoft IME スタンダード 2002.. 48, 50
Millennium G450 23

N

NTFS..... 35

O

OS 追加プログラム..... 48, 54

P

Power MANagement for
Windows.....48, 55

Q

Quadro FX 100027
Quadro FX 200027

R

RADEON 9200 SE24
RecordNow.....48, 53

S

Safe モード68
SCSI ドライバのバックアップ.....10

V

viewdocs.....48, 50

W

Wakeup on LAN 機能79
Wildcat4 7110.....30
Windows 2000.....48, 49
 — SP4.....49
Windows Update60
Windows XP Professional48, 49
 — SP1a.....49

か行

仮想メモリ75
休止状態.....37
 — の留意事項37
競合69

さ行

省電力37
スタンバイ37
 — の留意事項37

た行

ドライバース CD 59

は行

ハードディスクデータ消去..... 48, 56
光磁気ディスクイジェクトツール.. 48, 52
光磁気ディスクセキュリティ
ツール 48, 53
光磁気ディスク・ドライバ..... 48, 52
ファイルシステム..... 35
ページングファイル..... 75

ま行

マルチディスプレイ機能..... 21
ー設定..... 23

CELSIUS M420、
CELSIUS J320

ソフトウェアガイド
B6FH-0201-01-00

発行日 2004 年 2 月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。